

乙 第 号

池田 真徳 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	西尾 健治
論文審査担当者	委員	教授	岸本 年史
	委員(指導教員)	教授	杉江 和馬

主論文

Fatigue is associated with the onset of hallucinations in patients with

Parkinson's disease: A 3-year prospective study

パーキンソン病患者において疲労は幻覚の危険因子である：3年間の前向き研究

Masanori Ikeda, Hiroshi Kataoka, Satoshi Ueno

eNeurologicalSci. 2016 Apr 16;4:25-29.

論文審査の要旨

最も多い特定疾患であるパーキンソン病において、運動症状以外の非運動性症状が日常生活の質を悪化させており、その中でも特に幻覚に注目して、幻覚発症に関わると推察される因子を3年間の前向き研究で調査している。63名を追跡し得ており、疲労、特に気分や人間関係の疲労が、幻覚発症の危険因子であることを明らかにし、疲労のコントロールにより幻覚の発症を抑制できる可能性を示唆している。

公聴会においてはレビー小体型認知症との関連について聞かれ、沈着部位などから別のもと考えられること、また、セロトニンニューロンの疲労への関与を示された結果から、セロトニンを介した治療や疲労を軽減する療法の幻覚発症への効果について尋ねられたが、今後の臨床現場でこれら療法の幻覚発症抑制の可能性について適切に回答された。

本研究はパーキンソン病患者の幻覚発症と疲労を結びつけて前向きに分析を行った点で画期的であり、その結果も疲労への関わりにより幻覚発症抑制など生活の質を改善させうる可能性を示唆するものであり、臨床神経筋病態学の発展に寄与すると考える。公聴会での発表、質疑に対する応答ともに適切で、参考論文と共に博士（医学）の学位に値すると考える。

参 考 論 文

1. Step Numbers and Hoehn-Yahr Stage after Six Years.
Kataoka H, Tanaka N, Kiriyaama T, Eura N, Ikeda M, Izumi T, Furiya Y, Sugie,
Ueno S.
Eur Neurol. 2018;79(3-4):118-124
2. Can levodopa prevent cognitive decline in patients with Parkinson's disease?
Ikeda M, Kataoka H, Ueno S.
Am J Neurodegener Dis. 2017 Jun 15;6(2):9-14
3. Risk of falling in Parkinson's disease at the Hoehn-Yahr stage III.
Kataoka H, Tanaka N, Eng M, Saeki K, Kiriyaama T, Eura N, Ikeda M, Izumi T,
Kitauti T, Furiya Y, Sugie K, Ikada Y, Ueno S.
Mov Disord. 2016 Dec;31(12):1829-1836

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに臨床神経筋病態学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年12月8日

学位審査委員長

総合臨床病態学

教授 西尾 健治

学位審査委員

精神医学行動神経科学

教授 岸本 年史

学位審査委員(指導教員)

臨床神経筋病態学

教授 杉江 和馬